

環境社会貢献

国内・海外の各拠点で環境社会貢献活動を積極的に推進し、国際社会・地域社会との共生を図っています。

基本的な考え方

富士通グループでは、社員一人ひとりが地球環境の大切さを認識し、美しい地球環境を次世代へと受け継いでいくために、「地域貢献活動」「自然環境保全活動」「環境教育活動」を3つの柱とする環境社会貢献活動を通して、地域社会に貢献しています。

地域貢献活動

富士通グループでは、地域の環境維持および地域の皆様に快適な環境を提供することを目的に、全国の支社・支店、工場はもちろん、海外拠点も含めて清掃活動や緑化活動などの地域貢献活動を実施しています。

海岸清掃の実施((株)富士通ビー・エス・シー)

静岡県沼津市の景勝地、千本浜海岸に漂着するごみが多いことから、(株)富士通ビー・エス・シー三島開発センターでは、「千本浜海岸のごみを楽しみながら拾い、楽しみながら環境について考える」ことをテーマに、2001年から毎年、海岸清掃のイベントを開催しています。

2010年も6月の第3日曜日に開催し、社員とその家族を含めて約50名が参加しました。

香港での海岸清掃(Fujitsu Hong Kong Ltd.)

Fujitsu Hong Kong Ltd.の社員8名は、絶滅危惧種であるシナウスイロイルカの生息域を守るため、香港国際空港近隣の海岸での清掃活動に参加しました。50袋、500kgのプラスチックごみが収集されました。

自然環境保全活動

生物多様性の維持・再生を推進し、身近な自然環境を守るために、農地管理や植林などの活動に取り組んでいます。

農作業を通じた生物多様性の社会への普及

富士通グループは、山梨県が推進する「やまなし企業の農園づくり」制度に参画し、社員がボランティアでブドウ農園の農作業を収穫期まで手伝うという活動を実施しています。この活動の目的は、参加者が農業体験を楽しみながら、農地の適切な管理が生物多様性保全に貢献することを知り、その理解を深めていくことにあります。

2010年3月から、「富士通GP2020^{*}ワインファーム」と名づけた甲州市のブドウ農家(有)夢郷葡萄研究所の農園の一部で活動を開始。年間3回、総勢107名の社員とその家族が農地を訪れ、枝の誘引作業、傘紙かけ、収穫作業を行いました。2011年3月には、このように多くの社員関わったブドウを使い、富士通GP2020ワイン300本が完成しました。

^{*} GP2020:富士通グループの中期環境ビジョン「Green Policy 2020」の略。

TOPICS

ゴルフイベントを通じた地球環境保全の取り組み

女子ゴルフトーナメント「富士通レディース」が開催された「東急セブンハンドレッドクラブ」において生態系調査を行い、環境省が指定する「レッドリスト」などに指定されている動植物が多数確認され、このゴルフ場が野生動植物の生息・生育域を提供する場として貢献していることが判明しました。



タシロラン
環境省:準絶滅危惧



ホトケドジョウ
環境省:絶滅危惧IB類

厚木研究所での植林活動

2010年6月、厚木研究所では、植物学の第一人者である宮脇昭氏をお迎えして、記念植樹会を開催しました。

潜在植生に基づく苗を80本植え、また、シイ、タブ、カシの主木3種の種(どんぐり)を集め、育成を開始しました。

環境教育活動

富士通グループは、地域の皆様や子どもたちに環境の大切さを知ってもらうため、環境出前授業を行っています。2010年度は、56カ所の小・中学校や公民館などさまざまな場所で、のべ約3,400名を対象に「パソコン分解を通して学ぶ3R」や地球環境カードゲーム「マイアース」などの環境出前授業を開催しました。

また、さらなる出前授業の要請に応えられるよう、2010年度に新たに40名の社員を講師として養成しました。2011年4月現在、85名の講師が全国各地で授業を行っています。

富士通の最新技術を活用した環境出前授業

2011年4月に発売した「小形電力センサー内蔵スマートコンセント(P60参照)」を活用して、省エネを促す小学校6年生向けの環境出前授業を新たに開始しました。

電気の変換の際に「電気のムダ」が発生していること、また、省エネのためにはムダの排除が重要であることを学習し、身近な例としてパソコン使用時の省エネ行動を考えてもらうというプログラムです。

この授業は経済産業省の委託事業である「社会人講師活用型教育支援プロジェクト」に参加して開発したものです。



環境出前授業の様子:スマートコンセントを使って消費電力を測定



^{*} 社会貢献活動全般に関する取り組みについては、P86-89参照。